

# 一般質問発言通告書

発言順位	1番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 6年 2月 14日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 1番 秋山 恭亮

質問事項 1	共創による三島市のさらなる発信機会（パブリシティ）の増大について
具体的内容	昨今、静岡県東部が全国的にも注目されている。移住したい町の上位に三島市もあがっており、この状況はしばらく続くものだと考えられる。しかし情報の移り変わりが早い現在、いつまでも永遠に続くと考えられない。 令和6年1月より、静岡県を舞台にしたドラマが、放映されている。視聴率も高く、話題にも上っているが、三島市が映ることはほとんどないように思われる。三島市は単発のロケでは放映されることが多いが、大規模なロケ、長期的なロケは少ない。これには、東京や首都圏・関西圏などの制作会社が三島市をロケ地としたいときに、その窓口となり許認可から食事・宿泊・送迎・エキストラの募集・警備などを一手に引き受ける機能がないことが大きな原因の一つだと考えられる。このような窓口企業を市のホームページでリンクさせ、制作会社がスムーズにロケを行うことができるようになり、パブリシティを増大している近隣市町も実際にある。このような窓口を市内の民間・企業と連携し、共創することを提案したい。以下について伺う。 1 現在、三島市管理の土地施設等でのロケの許可はどのような手続きが必要か。また年間の頻度はどれくらいか、対象施設はどこか、どのような団体がどのような撮影のため許可を求めてきたか伺う。 2 特にドラマなどの長期で大規模なロケでパブリシティを増大させることについて当局の見解を伺う。 3 ロケの許認可から食事、配車、宿泊、エキストラの募集、警備を全て三島市担当課が準備するのは困難だと考える。これこそ民間と共創すべきだと提案する。当局の考え、必要な手続きについて伺う。
質問事項 2	市役所庁内、学校等におけるDX推進について
具体的内容	三島市では全国的にも先進的な事例として、小中学校にノーコードツールのアカウントを、小学校14校、中学校7校の教員と教育委員会の職員に配布している。試験的な運用から始まっているが一定の効果が出たため、規模を拡大したと伺っている。ノーコードツールで開発したアプリを多くの教員が使うことができるようになることで、DXの加速に寄与すると考えられる。また、この実例は市役所全体のDX促進のヒントにもなる。市役所で担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させるとともに、AI等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくことが可能となる。また、業務効率化が進むことにより、行政サービスにかかるランニングコストを圧縮することも可能であろう。ファシリティマネジメントに並ぶ長期的コストの削減に大いに寄与すると考える。以下について伺う。 1 三島市の教育現場を知るために、文科省の教材整備指針に対して三島市の現状を伺う。 2 学校と教育委員会へのノーコードツールの導入の経緯、現在の運用状況について詳しく伺う。 3 学校と教育委員会へのノーコードツール導入拡大による効果と今後の拡充活用について伺う。 4 教育委員会主導による学校への支援の良い例だと考える。学校現場の働き方改革に与えた影響について伺う。 5 市役所全体のノーコード、ローコードツールの活用事例、DX推進への取り組み、活用しているツール、人材育成の現状について伺う。 6 市役所全体のDX推進において今後の取り組み、到達目標、費用削減、人材育成について伺う。